

# 福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

〒BSシブシブ「メイ」のいきいきモーニング」取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定  
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049・230・1111(FAX)230・1112

福音の園、Gospelgardenは有限会社シヤロンの商標

## 来訪者の声

「看取り介護(看護)体制——「敬老の日」に寄せて

## 介護は「自分の老い」のリハサル

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

「介護体験は自分の老いのリハサル」とは羽成幸子さん(カウンセラー・エッセイスト)のうたい文句です。十九歳から三十年間、祖父母・父母・姑の五人を次々と介護し、看取り、その間、二五歳で結婚し四人の子供を育てた半生から「介護を経験すると、老いの認識が出てくる。自分もいずれはこうなるのかなという想定ができ、不安が消える。自分の老いは自分の親から学ぶのがいちばんいい。親子はどこか似るもの。親の頑固さに手を焼いているなら、いずれは頑固な年寄りになるかもしれない。親の介護は何年後かの自分を世話しているようなものだから」と、介護する側、される側の心のあり方を独自の視点で提言しておられます。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

## 昔はみんな自宅(家庭)で最期を迎えた

三〇年前、祖母は家族や村人に見守られて逝った。夕方、介護する母に息子である父の所在を尋ねた。村人が集会場に集まり「寄り合い中！」と返答。すると村人を呼んで欲しいと懇願。村人が敷布団を囲むように揃ったところで「お世話になりました」と別れの言葉を発した。中座し村人らが囲炉裏端いりばたで茶話の最中、静かに息を引き取った。「遊んで出来た妾(めかけ)の子！」と中傷を背にして生きて人が、世間を恨むことなく謝意を口にして逝った。

おそらく、祖母は昔からの親兄弟の自然な最期を見てきた。そして今、肉親の死の一つひとつを思い起こしながら、自らもそうした最期に身を委ねようと「老いを意識して生きた」結果の最期だった。



## 「運営に関する基準」の「家庭的な環境」を解釈し

グループホームは「要介護者であって認知症であるものについて、共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴・排泄・食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにするものでなければならない」(「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準」第八九条)とされています。

九年前の開園当初より「ホームで看取り」方針でお世話してまいりました。やがて、後を追うように「看取り加算」が付与され、本年四月の改正介護保険法ではさらなる「看取りの対応強化」加算となりました。各種セミナーで「改正介護保険法を私なりに解釈すると」と講じる講師の言葉に耳を傾けると、



「厚労省は、看取りまでやってくれ。特養の受け皿になれと、グループホームのミニ特養化を目論んでいる」という「解釈」が大勢を占めていました。

ここで厚生労働省を擁護する訳ではなく、三年毎に改正される介護保険法を解釈するより先に、開園準備段階から「運営に関する基準」第八九条の文言「家庭的な環境」を当園基本理念と運営方針に基づいて「解釈」。五〇名・八〇名という大所帯「施設」ではない。「介護の切り札」として誕生した一八名定員のグループホームだからこそ「畳の上で迎える最期」(自宅で迎える最期)に、一歩でも半歩でも近付けることができる。「解釈」して現在に至りました。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

## 今、「ミニ家庭」としてのグループホームを

遠く医療のない時代、お年寄りの死は、冬が近づけば木の葉の落ちるような、ごく自然なものだったに違いありません。医療の進歩にともなう、食べられなくなつてからでも様々な治療が続けられ、人は風に逆らうように死んでいるのが実情。自宅で迎える最期とは、すべての延命に見切りをつけることです。そうは云うものの、自宅で最期を迎える病人・高齢者の裏では、家族の負担も多大です。そこで、家族の負担軽減の受け皿の一つが、「ミニ家庭」としてのグループホームであると「解釈」しています。

八年間に、固い白壁に囲まれた病院ではなく、住み慣れた「家庭的な環境」(顔馴染みのスタッフや入居者)の中で、「畳」は無いがベッド上で迎える最期を希望されたご家族と共に「一〇名」の入居者を看取ってまいりました。決して「ミニ特養」化ではなく、住み慣れた家庭に近付きたい「ミニ家庭」化を苦心しながら目指してまいりました。今後は、さらに「ホームホスピス」も視野に取り組んでいきたい。私も

同様に「介護は自分の老いのリハーサル」だと認識  
しているからです。祈り。

**来訪歓迎** ボランテニア体験プログラム ○○○○様

**御礼** メロン・スイートコーン ○○農園様(北海道)